

平成 27 年度事業報告

社会福祉法人 みんなのうちに

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

設立3年目となる本年は、平成27年4月1日からの小梅保育園認可化移行後の運営を円滑に進めることを第1として、その為に必要な措置を講じてきた。具体的には以下の事業を行った。

法人関係

- * 給与支払者届等の各種届出
- * 基本財産の取得に係る定款の変更及び登記
- * 社会福祉・児童福祉団体への加入
- * 退職金共済への加入
- * 借入金返済等に向けた体制作り
- * 税理士・社会保険労務士との契約
- * 5月・1月・3月に定例理事会の開催
(尚、1月の理事会では、理事・監事の任期が満了することから、改選を行った結果、役員全員が引き続き、それぞれの職務を担うこととなった。)

保育園関係

平成27年度小梅保育園事業報告を参照のこと

小梅保育園27年度事業報告

社会福祉法人みんなのうちに

平成28年4月1日

はじめに

認可化初年度となる本年度は、スムーズな認可化移行を最優先課題とし、きめ細かく確認をしながら、必要に合わせて備品・消耗品の購入、職員勤務体制の確立、保育内容のバージョンアップを図った。特に、定員拡大に伴い、新入職員を多く迎える事から、園内・園外研修への積極的な参加を奨励した。また、改訂した「小梅保育園保育課程」「小梅保育園 ほいくの葉」「小梅保育園職員マニュアル」を活用し、充実した保育環境（人的環境・物的環境）を整え、「子ども達が安心して過ごすことのできる保育園、保護者の方が安心して預けることのできる保育園」の安定的な運営を心掛けた。また、開かれた児童福祉施設として、独自事業の実施や関係機関（近隣小学校・保育所・福祉施設等）との連携により、地域の子育て支援の拠点の一つとなるよう努めた。

メインスローガン 「考えながら保育を行おう！」

企画力・構成力・展開力・コミュニケーション力の向上を目指して

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	定員	実人員
たんぽぽ	0歳	2+看護師（非）1	6	6
ちゅーりっぷ	1歳	1+パート保育士1	6	6
あじさい	2歳	2	9	9
さくら	3歳	1	13	13
ふじ	4歳	1	13	12
ひまわり	5歳	1	13	7
	フリー	4		
合 計		12	60	53

*実人員は、平成28年3月末日時点

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294日
25	23	26	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	24	26	

ウ 健康管理

【子どもたちの健康面に関する具体的取組】

- ※ 定期的に園医が来園し健康診断・歯科検診の実施。（下記一覧参照）
- ※ 入園前に園医による入園前健康診断の受診実施。
- ※ 在園児の予防接種の記録並びに在園児の法定伝染病の罹患記録を園に保管、随時更新した。
- ※ 毎月身長体重を測定し、その結果を健康カードに記入し、保護者にも伝えた。
- ※ 乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、乳児（生後12ヶ月まで）のお子様に対し、10分おきの睡眠中チェックの実施。
- ※ 0、1、2歳児は1日2回、検温を行った。（体調が思わしくないときは、更に、こまめに検温した。）
- ※ 毎朝、視診表や引き継ぎ表を使用し、登園前のご家庭での様子を確実に担任に引き継ぐ体制を作った。
- ※ 緊急時に備え、職員の上級救命講習受講を推し進めた。
- ※ 温度計・湿度計を各保育室に設置し、室内環境の維持を心掛けた。
- ※ 加湿器や空気清浄機を使用し、ウイルスの飛散の防止に努めた。
- ※ 全職員が毎月保菌検査の実施。（事務職員を除く）
- ※ 布団乾燥を定期的に実施した。（墨田区事業）

年間保健行事（実施内容・実施回数）

保健行事	対象
内科健診	0歳児(毎月1回)、1歳児以上(年2回)
歯科健診	全園児(年2回)

保健について

看護師が中心となって対応した。専門職がいることで、急な病気やけがなどに的確に対応できた。その一方で、保育士の保健に対する専門性の習得が課題になった。

エ 保育全体目標

げんきなところとげんきなからだをつくる

- 自分らしく過ごす中で、自分を信じ、何事にも懸命に取り組み、やり通すことの出来る子ども
- 社会性・協調性を身につけ、受容する心を持って全てに接することの出来る子ども
- 命の大切さを尊び、成長していく喜びを感じることの出来る子ども

保育理念

- 子どもを愛し、あたたかい心で、子どもの心をやさしく育てていく。
- 子どもが穏やかに、かつ楽しい園生活を送れるように保育環境を整え、保護者の方との緊密な連携のもと保育を行っていく。
- 子どもの自主性を尊重しつつ、集団生活の中での社会性や協調性を身につけられるようにする。そして、これらを通じて個々の子どもの成長・発達を促していく。
- 四季折々の自然に触れ、命の大切さを尊ぶ心を育てていく。

保育者の関わる姿勢

- 子ども達が安心して過ごすことの出来る生活の場を提供していく。
- 子ども達の人権を尊重し、個性を大切にしながら、のびのびと成長することが出来る環境設定を行っていく。
- 子ども達の最も身近な大人の一人として、また、人間の基礎をつくる大事な時期に多くの時間を関わる者として、自覚を持ち、子ども達の範となるような言葉かけや動きを実践する。
- 子ども達がやさしさや思いやりを持ち、更には基礎的生活習慣を習得し、ルールの大切さを自分自身で感じ取れるような保育を心掛けていく。
- ものづくりのまち、「すみだ」ならではの取り組みを保育に取り入れると共に、グローバル化する時代の背景に沿って、多種多様な経験が出来る保育内容を心掛ける。

オ 各組の保育目標

	年齢別保育目標（目指す子どもの姿）	保育者の関わる姿勢
たんぽぽ組 (0歳児)	誕生から急激に発達を遂げる子ども達の個々の成長に合わせ、保育園が安心して過ごすことの出来る場所であると思うことができ、ゆったりとした環境の中でのびのびと生活をし、成長の喜びを感じることができる子ども	生きる喜びを子ども達と共有し、常に子ども達がゆったりと安心して過ごすことのできる環境設定に配慮する。個々の成長に合わせそれぞれの生活のリズムを大切にしながら保育を行なう。子どもと目を合わせながら常に言葉かけを行なう。体調の変化を見逃さず、保護者の方と共に専門職として子どもの成長を見守る。
ちゅーりっぷ組 (1歳児)	手足の発達や言語の発達が著しく見られる中で、身近な環境に何でも興味を持ち、自分の思いを周りの大人に伝えられる子ども。自分の思いと集団生活の一員としての自制心をバランスよく共有できる子ども。	子どもの気持ちを尊重し、子ども達が興味をもって取り組むことができる活動を計画する。特に取り組みの前にはこれから行なうことを言葉にして、子ども達の理解を促しながら、丁寧な関わりの中で子ども達が自分で出来ることを増やしていく。友達同士の関係をあたたく見守りながら必要に応じて、その架け橋となる。
あじさい組 (2歳児)	自分の思いをはっきりと伝えられ、大人だけでなく子ども同士でも言葉を介し、意思の疎通が図れる子ども。年齢に見合った生活習慣やマナーを習得し（ほぼ自立）、対人関係を構築できる子ども。	自分でやりたいという子どもの思いを大切に受け止めながら、積極的に自分自身で取り組んでいけるように工夫し、出来たときにはその喜びを子ども達自身が実感できるように喜びを共有する。人としてのマナーや生活習慣を無理なく身につけられるよう配慮する。また、物事の善悪を適切な言葉を使い、わかりやすく伝えていく。
さくら組 (3歳児)	幼児クラスの一員となり、友達同士の関わりや保育士との関わりの中で、自我と周囲との関係をよりバランスよく保つことが出来る子ども。自分の周りのあらゆる物に思いやりの心を持つことができる子ども。	園での生活や遊びを通じて、自分一人で生きているのではなく、多くの人々との関わりの中で生活していることが実感できるよう配慮する。その上にたって、社会的生活を送っていくには様々な決まりごとがあり、したいこととしなくてはならないこと、また押し通していいこと、他者に耳を傾けなければならないことを実例を通じ感じられるよう工夫する。
いじ組 (4歳児)	基本的な生活習慣が身につく、その上で子ども同士で問題の解決を図ることが出来る子ども。物事に取り組むにあたり、その後についての予測をもって臨むことができる子ども。	子ども達が興味をもって取り組める課題を設定すると共に、展開のある保育を実践する中で、子ども達の想像力や創意工夫を促していく。基礎的生活習慣の確立を目指し、できたときには喜びを分かち合い、できなくても取り組む姿勢を評価し、励ましていく。
ひまわり組 (5歳児)	小学校への入学に向けて、規則正しい生活習慣を身につけると共に、どのような課題に対しても集中力を持って臨むことが出来る子ども。今までの経験を活かし、予想や見通しを立て、物事の解決に創意工夫をもって対処できる子ども。	子ども達の自主性を尊重し、遊び込める環境設定を行なう中で集中力を養っていく。特に集団で取り組む課題については、子ども達自身で話し合い、意見の集約が出来るよう、保育の中で子ども達に寄り添っていく。たくさん経験をする中で、子ども自身が自信を持って就学を迎えることができるよう配慮する。

カ 主な行事予定

	毎月のねらい	行事
4月	春の自然に触れて遊ぶ。 新しい環境に慣れ、安心して過ごす。	入園・進級おめでとう会 交通安全教室 お花見散歩 誕生会
5月	身近な小動物や自然と触れ合う。 好きな遊びを見つけて楽しむ。	こいのぼり集会 泥んこ遊び開始 春遠足（荒川土手）3～5歳児 誕生会
6月	身の周りの様々な自然を見つけて遊ぶ。 砂・土・水の感触を十分に味わう。	歯を大切にしようね会 泥んこ遊び 誕生会
7月	夏の自然に触れたり、盛夏ならではの遊びを楽しむ。 身近な植物の生長から命の大切さを知る。	七夕集会、 プール遊び開始 誕生会
8月		プール遊び、夏祭り クラシックコンサート 誕生会
9月	秋の気配を感じ、戸外で十分に体を動かす。 高齢者の方と触れ合い、親しみを持つ。	おじいちゃん・おばあちゃん会 誕生会
10月	友だちと体を動かす喜びを感じる。 季節の移り変わりに気づく。	運動会 秋遠足（1・2歳児 近隣公園） 高齢者の方々との交流 （すみだ福祉保健センター） 交通安全教室 小梅小学校交流 誕生会
11月	秋の自然に親しみ、自然物を取り入れた遊びを楽しむ。 働いてくれている人たちへの感謝の気持ちを持つ。	お店屋さんごっこ 秋遠足（3～5歳児 荒川土手） 誕生会
12月	様々な表現活動を友だちと一緒に楽しむ。 新年を迎える期待や喜びを持つ。	高齢者の方々との交流 （すみだ福祉保健センター） クリスマス会 クラシックコンサート 誕生会
1月	お正月遊びを楽しんだり、日本の伝統的な風習を知る。 冬の自然に触れ、寒さに負けず元気に運動する。	正月遊び大会 誕生会
2月	様々な遊びに積極的に取り組む。 冬の自然に進んで関わり、豊かな感性を育む。	節分 誕生会
3月	自然の変化を目にし、春の訪れを感じる。 進級・進学への期待を持ち、落ち着いて過ごす。	ひな祭り集会・お別れ遠足（上野動物園） 1年間楽しかったね会・卒園式 卒園児お別れ会 誕生会

宗教上の理由などで一部の行事への参加を見合わせることを保護者が希望する場合は、保護者の意向を尊重する。

保育について

はじめての園舎の中で、どのように使用すると効果的なのかを試行錯誤した一年だった。その中で、長年の懸案だった発表会が実施できたことは、保育園として一步進化したと考えている。また、土曜保育をはじめ、朝・夕の合同保育等に課題が見つかったので、来年度に向けて検討していきたい。

キ 食事

旬の食材を出来るだけ多く使用し、変化に富んだメニューの提供を心掛けた。また、誕生会の日の献立は、誕生児（主に5歳児）のリクエストに応えたものとする等、園の保育目標（げんきなところとげんきなからだをつくる）に根ざした、子ども達一人ひとりを大切に作る姿勢を給食の中にも反映させた。

※献立…毎月、自園の栄養士が献立表を栄養管理献立ソフトにより作成し、それに基づき調理を行った。

※離乳食についても、保護者の方との緊密な連携のもと、スムーズな提供に努めた。（離乳食の進め方については、0歳児クラスの保護者に配布する食事・発達のめやす表を活用しながら進めていった。）

※離乳食については、初期・中期・後期に区分し、個々の成長に合わせ、栄養士・調理・保育担当者が調節しながら提供した。

※幼児食については、1～5歳児まで同一のメニューを採用したが、3歳未満児と3歳以上児では、量や食材の大きさを変えた。（必要栄養摂取量を基に）

※アレルギー除去食へのきめ細かい対応。（特に献立作成時の配慮を心掛ける。）

※毎日お迎えの時間帯に給食・手作りおやつの見本展示やツイッターでの発信。

※配膳時に職員は食事専用のエプロン・三角巾を使用。

※幼児クラスでは、子どもも、お当番活動を実施。

※食事の際には、テーブルクロスを敷く等食事環境を整えた。（離乳食を除く）

※材料は、原則として国産のものを使用するように努めた。

（魚や一部の野菜等、やむを得ないものは、輸入品を使用した。）

※魚は、骨抜き加工したものを使用した。

※栄養士が年に12回食育便りを発行し、啓発に努める。

※区の食育フェスティバルに私立保育所団体として参加した。

食事について

一年を通して、安定した給食提供ができたと考えている。バラエティーも広がり、小梅保育園の売りの一つになった。また、ツイッターで紹介することで、食の情報発信もおこなった。

ク 安全管理

交通安全教育（年2回）

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（年2回）

（2）職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	11名
保育士（パート）	3名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名（短時間）
事務長	1名
嘱託医	1名（非常勤）
保育補助	2名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（5～10月）

細菌検査 毎月 1回（事務職員を除く）

ウ 職員会議

- ・職員全体会議 毎月1回
- ・リーダー会議 原則、毎月2回（園長・主任・事務長）
- ・クラスミーティング クラス単位で原則、毎週1回（主任・クラス担任）
- ・離乳食会議 原則、月1回（離乳食の提供がある間）
- ・給食会議 毎月1回（全体会議の中で…喫食状況・食育活動など）
- ・献立会議 原則、毎月1回（園長・主任・0歳児担任）
- ・リスクマネジメント委員会 原則、毎月1回（園長・主任・看護師・栄養士）
- ・防災委員会・防火委員会 原則、毎月1回（園長・主任・栄養士）

エ 研修計画

職員個人別研修計画（自己向上シート）を作成し、それに基づいて適切な研修への参加を勧奨した。

才 労務規程

就業規則をはじめ各種規程を設け、職員の処遇を担保すると共に、その向上に努めた。

労務について

国の制度の活用など、職員の処遇改善に努めた。研修については、出来るだけ多くの受講を図ったが、その共有が課題となったことなどから、目標シートを精査し、OJTを中心としたものへの転換を検討していきたい。

2 特別保育事業

① 延長保育事業

原則として2時間延長を行い、20時15分までの開所とする。

② 地域活動推進事業

・世代間交流等事業

利用者の方や地域の方（福祉センターのデイサービス事業や町会）との交流を通じて、世代間のふれあい活動を行った。（正月遊び大会の実施）

また、小学校教諭の10年研修の受け入れも行き、他の大人と交流する機会を作った。

・異年齢児等交流事業

園内での日常的な異年齢保育を積極的に行う他、小学校との連携を図り、児童の社会性を養った。（ただし小学校の訪問はインフルエンザの流行で中止した。）

・中高校生保育体験事業

中学生（墨田中学校1年生）が、子どもや家庭の大切さを理解できるよう乳幼児とふれあう場作りを行った。この他他県からの中学生の訪問もあった。

・子育て力アップ事業

在宅子育て家庭を対象に親子の心身の健全育成向上と保護者の子育て力のアップを図ったが、参加者はそれほど多くなく事業の周知が課題となった。（保育士・栄養士・看護師による専門性を活かした取り組み、子育てメッセへの出展、ひろばとの連携）

・食育等推進事業

給食試食会を開催の開催、食育だよりの発行、食育フェスティバルへの参加等多面的な展開を図った。

特に、板前さんを招いての鯛のさばきなど、特徴的な取り組みも行えた。

③ 保育所体験特別事業

- ・在宅親子の抱える悩みの相談窓口となり、必要に応じて関係機関との連携調整に努めたが、実施は少なく、主に見学中に相談を受けることが多かった。

3 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

事務長を中心に適切に行った。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

施設長・主任が統括する。

(2) 設備関係

機器・遊具の設備点検…定期的を実施する。

(3) 備品関係

今年度は、開設初年度ということから、必要に応じ、備品・消耗品の購入を行った。尚、仕入れ先は可能な限り限定し、事務効率の向上を図る。

(4) 災害対策

ア 毎月1回の避難・消火訓練

…これに加え早番時の訓練や不審者訓練も実施した。

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

80（全児童数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

4 保護者に向けて

(1) 保育への理解と協力の促進

ア 保育参加

保育参加は日程を複数設定し実施する、運動会、誕生会は参加と参観に充てた。

イ 保護者会

年1回、クラス毎に開催。

ウ 個人面談

個人面談を年2回実施した。

エ お知らせ

- ・園だより毎月発行
- ・クラスだより毎月発行
- ・保健だより年間6回発行
- ・食育だより毎月発行
- ・献立表（離乳食・幼児）毎月1回発行

5 地域社会との連携

開かれた保育園を目指し、地域との関わりを積極的に持つよう努めた。

- * 地元町会への参加
- * 近隣商店との連携
- * 近隣中学校・小学校・保育園・児童館等の教育施設・児童福祉施設との連携
- * 福祉センターとの連携
- * 子育て支援団体への参加 等

6 その他

第三者評価を受審し、結果を公表した。

総括として

新園舎となり、児童・保護者の人数も増えたことから、要望の多様化した。これらへの対応や信頼関係の確立については、課題も感じられた。保育内容については、初年度ということもあり、認証時代から実施していったものをベースとしたが、認可保育所となり、人数も増えた中、再考を要するものもあった。連携については、5階建ての建物の為、難しかったり、連携ミスも伺えたので、検討課題として認識している。全体としては、スムーズな認可化、運営が図れたと考えている。